

(様式 1)

# 令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立第三吾嬬小学校
校長名	川中子 登志雄

## 1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・国語、算数については、全学年とも目標値を超え、基礎学力の定着が見られる。特に2, 3年生で顕著な結果となった。</li><li>・国語の「読む力」は全学年優良、算数の「関心・意欲・態度」「数量や図形についての知識・理解」は全学年が良好な結果である。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・社会、理科の基礎学力が全般的に定着していない。4年以上の学年では、前年度より下降傾向が見られる。特に知識・技能面での正答率が低い。</li><li>・4学年は国語、社会において目標値にほとんどの観点が届かなかった。D層の割合が高く、個に応じた指導が必要である。</li><li>・5学年は全体的に昨年度までと比較して大幅に下降している。学習意欲の低下が見られるので、その改善が必要である。</li></ul>

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・全般的に全国平均的なバランスのよい結果となっている。</li><li>・規範意識は高学年になればなるほど高い。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・思いを伝える力が相対的に低めである。コミュニケーション能力の向上が課題である。</li><li>・4学年では学級の絆の値が低い。(しかし、いじめのサインの値はとても高い結果となっている。)</li></ul>

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・普段の授業態度はどの学年もよく、特に高学年にいくに従ってよくなっている。</li><li>・ICT機器を活用した学習スタイルが定着し、道具として活用が可能になってきている。</li><li>・6年生全国学力調査の結果は、国語・算数ともに良好なものであった。</li><li>・都立、私立中進学者数の変化(29年度5名→30年度17名)に見る、保護者の意識の変化。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・反復練習による基礎的な知識・技能の定着。</li><li>・自分の考えや意見を相手に伝える力の育成。</li><li>・さらに上を目指す知的な好奇心、学習意欲の向上。</li><li>・家庭学習の習慣、特に自主課題(「トッピング学習」)への取組姿勢と内容</li><li>・保護者の教育に対する意識改革</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) ICT機器を活用した授業改善(シンキング・サイクルによる学習過程の質的な改善)

- ・平成30年度から継続している墨田区学校 ICT 化事業タブレット端末活用モデル校の研究を推進し、主体的・対話的で深い学びを追求する授業を行う。

- ・各学年の発達段階に応じた目指すべき児童像を明確にし、児童に身に付けさせたい資質・能力を高めるための指導方法の改善を図る。(シンキング・サイクルによる学習過程の質的な改善)
- ・児童にタブレット端末を、鉛筆やノート、教科書、辞書のような学習の「道具」の一つとして日常的に活用させ、学習意欲の向上を図り、他者との交流活動に主体的に関わるようにさせる。
- ・タブレット端末の機能を、思考を整理し、深める道具として活用させることで、課題解決のプロセスとしての児童の思考パターンの定着を図り、学習過程に見通しをもたせる。
- ・デジタルとアナログの両方のよさを体験させ、主体的に学習する「学び方」を身に付けさせる。

## (2) 反復練習による基礎的な知識・技能の定着

- ・各教科の学習を深めるために絶対的に必要となる基礎的な知識・技能が何であるかを指導者が確実に把握した上で、単元の学習過程で、繰り返し確認するためのドリル学習を取り入れる。
- ・単元の学習が終了した段階で、それらの知識・技能が定着しているかを確認し、定着していない児童については、個別指導や家庭学習で補充することを徹底する。
- ・学年末に、振り返りシート等を活用し、再度基礎的な知識・技能の定着の確認を行う。算数少人数指導で効果が見られるように、学級の枠を取り払い、学年全体で習熟度別の振り返り学習、発展的な学習を行う時間を計画的に確保する。学級単位でなく、学年全体で主にC層、D層の学力向上を図る。

## (3) 組織的な取組による教職員の指導力と意識の向上

- ・「三吾・学習スタンダード」を徹底し、学校全体で学習規律の確立を目指し、学級を超えた視点で児童の育成を図る。
- ・学力向上委員会が主導し、各担任が分析・作成した学力向上プランの共通理解を図る。その上で、学年の教員が学年全体の学力向上のための課題を共有し、指導にあたる。
- ・研究推進委員会が主導し、日々の研究の成果が個々の教員の指導力向上につながっているかを検証し、アクティブラーニング型の指導技術の向上を図る。
- ・新年度の学級開きの際に、学校全体として明確な意思統一を図り、学年単位での「振り返り学習週間」を設定し、再度振り返りシート等を活用し前年度の学習の定着度を確認する。習熟度別の学習時間を設定し、習熟に応じた手立てを講じる。

### 3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・全学年・全教科における標準スコアが、目標値と全国平均を超える項目が60/69以上。
- ・理科、社会の観点別の「技能」「知識・理解」の標準スコアを前年度のスコア+3ポイント。

- ・今年度、目標値・全国平均を超えた項目が全69項目中35、目標値を超えたものが11という状況であった。また、全国平均値から-5ポイントとなる項目が4項目あった。全体的に向上を図り、目標値と全国平均の両方を上回る項目が60項目以上になることを目指す。
- ・現4、5年生の理科、社会における「技能」「知識・理解」は8項目中6項目が目標値に届かない状況であった。ここをそれぞれ+3ポイント以上のアップを目指す。